

# ようこそ！！「砂の美術館」へ



## チャールズ君が砂の美術館のPRをお手伝い

因幡の白ウサギをモチーフにしたキャラクター「チャールズ」君が、市役所を訪れ、竹内市長を表敬訪問しました。つぶらな瞳と背の高い帽子がとても愛らしいチャールズ君は、白亜の洋館を舞台に繰り広げられる美しい四姉妹と素敵なお仲間たちの物語「とっとり山の手物語 華貴婦人」に登場するキャラクターの一人。洋館で働くファンファーレ隊の隊長です。梨やらっきょうなど鳥取の特産品が大好きで、中でもハタハタのお寿司が一番の大好物です。イギリスの衛兵をイメージしたその姿を活かし、砂の美術館第5期展示「砂で世界旅行・イギリス」のPRを行うことが決まりました。

表敬訪問中、「とっとり山の手物語」実行委員会代表の福嶋登美子さんは「砂の美術館のPRのお手伝いがしたい」と抱負を述べ、竹内市長も「まさにチャールズ君の出番。4月14日のオープニングにも登場していただき、今後も大いに活躍してほしい」と期待を込めました。

※砂の美術館について詳しくは4ページをご覧ください。

☎ 鳥取砂丘・ジオパーク推進室 ☎ 0857-20-3036

# とっとり市報

2012年4月号 第1020号

## 目次

今月の表紙・人口・主な連絡先	P2
鳥取市を語る 市政への提言 「世界に通用する芸術家を100人育てたい」	P3
特集 新たな進化を遂げた「鳥取砂丘砂の美術館」へぜひお越しください。	P4-5
特集 魅力あふれる新しい大学へ 鳥取環境大学が公立大学としてスタート	P6-7
特集 毎月第3日曜日は「家庭の日」 家庭の日作文コンクール	P8
シリーズ @じんけん ～メンタルヘルス対策の中の人権～	P9
シリーズ 元気です	P10-11
まちかどアルバム	P12-13
健康・病院	P14-15
ピックアップインフォメーション	P16-19
狂犬病予防注射	P17
祝日のごみ収集(鳥取地域)	P18
個人住宅の小規模リフォームの助成	P19
やめよう！自転車の放置	P19
自治会(町内会)への加入のすすめ	P20
公共施設で無線LANが使用できるようになります	P21
日本海新聞ふるさと大賞2011受賞者紹介	P21
など	
情報ひろば	P22-28
無料相談	P29
イベント情報	P30-31
食・読者プレゼントなど	P32

## PUBLIC INFORMATION

とっとり市報 No.1020

### 鳥取市の人口

男 : 94,554人 [-38]

女 : 101,706人 [-55]

合計 : 196,260人 [-93]

世帯数 : 77,628 [-18]

平成24年3月1日現在 [ ] 内は前月比

※住民登録人口と外国人登録人口を合計したものです。

お持ち帰り用の市報を、地区公民館などに設置しております。どうぞご利用ください。

### 鳥取市役所

☎ 0857-22-8111(代)

☎ 0857-20-3040

〒680-8571

(郵便物は郵便番号と課名のみで届きます)

本庁舎 尚徳町116番地

第二庁舎 上魚町39番地

駅南庁舎 富安二丁目138番地4

### 鳥取市ホームページアドレス

<http://www.city.tottori.lg.jp/>

音声読み上げなどの支援機能があります

### ホームページ抜粋版

(携帯電話対応アドレス)

<http://www.city.tottori.lg.jp/mobile/>

### 電子メール

kouhou@city.tottori.lg.jp

### 各総合支所

国府 ☎ 0857-39-0555

福部 ☎ 0857-75-2811

河原 ☎ 0858-76-3111

用瀬 ☎ 0858-87-2111

佐治 ☎ 0858-88-0211

気高 ☎ 0857-82-0011

鹿野 ☎ 0857-84-2011

青谷 ☎ 0857-85-0011

### 編集・発行

鳥取市企画推進部秘書課広報室

☎ 0857-20-3132

発行/平成24年4月1日

印刷/中央印刷株式会社

### 世界に通用する芸術家 100 人を育てたい

#### つながりを大切に作る土地で

**市長** 東日本大震災を契機に昨年の春、貴裕さんの故郷である気高町に戻られ、鹿野町の廃校を利用したアトリエで創作活動をされていますが、活動内容などや鳥取の印象などについてお聞かせください。

**山根（貴）** 一人一教室をお借りしているんですが、こういう開放的な場所で、シンプルに自分のやりたいことを突き詰めながら制作に打ち込めるのでとても気に入っています。また、鹿野町は自然と歴史が共存している素敵なまちですね。「いんしゅう鹿野まちづくり協議会」の方々とイベントを通じて、地域の人や子どもたちと触れ合いながら活動させていたっています。

**山根（直）** 子どものころからずっと東京都内へ通学していたので、人工物の中に自分がいて無意識のうちにいろんなものに影響され、ノイズが入ってきてたんだと、気づかされました。自然の中の生活は、視点クリアになり、自分に素直に向き合って制作できます。

#### 自分にシンプルに向き合って

**市長** 自然と溶け合いながら、人と人との絆の中で暮らすことができるのは、鳥取の良さの一つでもありますね。鳥取市に來られてから、創作内容などに何か変

化はありましたか。

**山根（直）** 以前は、自分自身の中の生と死をテーマに描いていたんですが、大震災を経験し、鳥取へ来てからは少し離れた視点で客観的に描いています。人間が死んで生きて生きて死んできた中で、先祖代々からの伝統や文化を引き継ぎ、つながりを大切に作る土地で、私自身が変わりました。昔から名作と言われるものは戦争とか災害とか人が傷ついたときに生まれています。私たちの作品が、つらいことから立ち直ろうとしている人たちの心の中の癒しになればと思います。制作しています。

#### 鳥取市にミュージアムを

**市長** 鳥取市が活性化していくためには、芸術文化の振興はとても重要だと考えていますが、地域に対して注文やアドバイスがあればどうぞ。

**山根（貴）** 超一流と呼ばれる作家の作品が見られるミュージアム（美術館）が地元にはないのは、寂しいですね。本物に触れる機会って本当に大切なんです。

僕は、鳥取から僕も含めて世界に通用する100人の芸術家を育てたいという夢をもっていて、鳥取市のためにお役に立つことがあれば、何でもしようと思っています。

※対談内容を抜粋・要約して掲載しています。



- 対談者 東日本大震災を契機に鳥取市に移住された山根貴裕さん・直さんご夫妻
- 場所 旧勝谷小学校（鳥取市鹿野町宮方）
- 対談日 平成24年2月29日（水）